

「書くこと」で「読むこと」の力を育む言語活動の工夫

— 「読解リテラシー」の向上を目指して—



高山真名学園

つくば市立高山中学校

教諭 前嶋 洋子

「書くこと」で「読むこと」の力を育む言語活動の工夫

—「読解リテラシー」の向上を目指して—

高山真名学園

つくば市立高山中学校 教諭 前嶋 洋子

1 主題設定の理由

現代は「知識基盤社会化」や「グローバル化」へと社会が急速に変化している。次代を担う子どもたちには、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、異なる文化や文明との共存を図ることなど、変化に対応する能力や資質が一層求められている。一方、OECD（経済協力開発機構）のPISA調査など各種の調査からは、思考力・判断力・表現力等に課題が見られた。また、「読解力」については、情報相互の関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結びつけたりすることが苦手であることが指摘された。

本校の生徒は、読んだことを生かして自分の考えを表現することが苦手であり、「読むこと」の学習に対して受け身である。定期テストや実力テスト等においては、内容を読み取る設問にはしっかりと答えようとするが、読み取ったことから自分の考えを書くなどの設問では無回答が目立つ。また、実生活の中で、指示されたことを実行することはできても、深く考えずに行動し、自分の考えを伝えられずトラブルになることが多い。そこで、これからの現代社会で直面していく様々な課題を解決するためにも、生徒が主体的に読み、読んだことを生かす授業を展開することで、「読解リテラシー」を向上させていく必要があると考えた。

以上のことにより、本研究では、「書くこと」を目的として「読むこと」の力を育む学習の在り方を考察し、生徒が主体的に読み、自分の考えを表現することができる「読解リテラシー」の育成を目指す。そのためには、「読むこと」と「書くこと」を関連させ、文章と積極的にかかわるような言語活動の工夫を行うことが必要だと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

「読むこと」と「書くこと」を関連させた言語活動の工夫を通じて、目的に応じて主体的に読み、読み取って獲得した考え方や表記のスキルを生かす「読解リテラシー」の向上を目指す。

3 研究の仮説

「読むこと」の授業の中に、書き換え（リライト）、登場人物の相関関係の図式化（ベン図）、続き創作などの「書く」活動を取り入れることによって、何度も文章を読み返したり、深く解釈したりする必要が生じ、自ずと「読むこと」の力につながると考える。また、目的に応じて主体的に読み、登場人物の相関関係や筆者の意図を捉えたり、自分の考えを表現したりすることができる「読解リテラシー」が向上すると考える。

4 研究の内容

(1) 基本的な考え方

① P I S A 「読解リテラシー」

P I S Aにおいて、読解リテラシーとは「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組む能力」(国立教育政策研究所)と定義されている。

側面別には次の3つに分類され、到達度を測定される。

- i テキストを書かれていることを捉えて理解する【情報へのアクセス・取り出し】
- ii テキストの内容や筆者の意図などを解釈する【統合・解釈】
- iii テキストの内容や表現などを吟味・検討したり、自分の考えをまとめたりするような読み【熟考・評価】

また、文部科学省でもP I S Aの結果を受けて、次のような視点を示している。

- ・ 「テキストを理解・評価しながら読む力を高めること」→iii【熟考・評価】
- ・ 「テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること」→ii【統合・解釈】
- ・ 「さまざまな文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること」→i【情報へのアクセス・取り出し】 ii【統合・解釈】

文部科学省のこれらの視点は、「読むこと」と他の領域の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の活動の関連を通して「読解リテラシー」を身に付けさせようとするものであると考えられる。

② 「読むこと」と「書くこと」の関連

「読むこと」と「書くこと」を関連させた指導には、指導過程の中で関連させる場面や方法などが多様にある。大きく分けて3つに分類できると考える。まず、「読むこと」の指導に書く活動を取り入れる場合である。これは、読むことが中心であり、あくまでも「読むこと」を深めるための補助として書く活動を取り入れることである。次に、「書くこと」の指導に読む活動を取り入れる場合である。これは、書くことが目的であり、書き方を学ばせるために読ませることである。最後に、読んだことをもとに書く活動につなげる場合である。これは、教材を表現に即して読ませ、読み取ったことを生徒自身の表現に生かさせる場合である。

③ 本研究における言語活動の工夫

「読むこと」の学習は、読む活動だけでは読む能力が十分には身に付かない。話し合ったり、書いたりする言語活動を行うことで、より効果的に読む能力を身に付けることができると考える。

本研究では、読解リテラシーの育成のために「読むこと」と「書くこと」を関連させた言語活動を行う。ここでは特に、読んだことをもとに書く活動につなげ、最終的には「読解リテラシー」

iii テキストの内容や表現などを吟味・検討したり、自分の考えをまとめたりするような読み【熟考・評価】の段階への到達度を高めたい。

具体的な活動として、次の3つの書く活動を取り入れる。

ア 主人公の体験した出来事を整理し、他の登場人物の視点から書き換える。(リライト)

→【熟考・評価】

イ 登場人物の描写をもとに相関関係を捉え、ベン図を書く。

→【統合・解釈】

ウ 読み取ったことを生かして、物語の続きを書く。

→【熟考・評価】

(2) 主題に迫るために

①生徒の実態

本校は「つくばエクスプレス万博記念公園駅」近くに位置しており、学区内は都市開発され、住宅地が少しずつ増加している。しかし、昔からの農村部が多く、生徒達は穏やかな地域の中で生活をしている。核家族化もさほど進んでおらず、両親のみならず祖父母等からの愛情を受けて、素直な生徒が多い。その反面、人間関係をうまく築くことができなかつたり、依頼心が大きく消極的になったりする場面も見受けられる。

国語の授業では、文章に積極的にかかわろうとせず、深く読むことができない。あらすじをつかむ等、簡単な内容把握をすることはできても、人物について深く考えたり、筆者の意図を捉えたり、自分の考えや思いを言葉で表現したりすることを苦手とする傾向にある。

②本研究における言語活動の工夫について

ア 主人公の体験した出来事を整理し、他の登場人物の視点から書き換える。

「字のない葉書」(向田邦子)において、読みを深めるために、筆者(娘)や父親の心情の変化を読み取っていくよう指導する。特に3人称で書かれている父親の心情に迫るために、父親の立場に立ち、その人になりきって書くリライトを学習活動に取り入れる。立場を換えて物事を見たり、考えたりすることは、これからの社会生活でも不可欠なことである。その際、筆者(娘)側の言葉を父親側の言葉に書き換えたり、父親の心情を生徒自身の言葉で書き加えたりすることを通して、父親の心情に迫らせたい。また、書き換えのモデル文を示しながら生徒の書く意欲を持続させ、書き換えを重ねていくことで自然と父親の心情を想像して読むことへ導きたいと考える。リライトによって読みが深まることを実感させ、文学作品を豊かに味わう足掛かりとしたい。

イ 登場人物の描写をもとに相関関係を捉え、ベン図を書く。

「卒業ホームラン」(重松清)において、4人の登場人物に関する描写をもとに共通点や相違点を見出し、相関関係を考えながらベン図にまとめていくよう指導する。その際、文字量の多い作品であるため、考える範囲(場面)や描写をあらかじめ指定し、その部分を集中して何度も読み返す学習活動を取り入れたい。また、図式化する(ベン図を書く)ことによって、登場人物が物語展開においてどんな役割を果たしているかなど、筆者の人物設定の意図を考えることへとつなげ、読みが深まることを実感させたい。

ウ 読み取ったことを生かして、物語の続きを書く。

「卒業ホームラン」(重松清)は、主人公の父親(徹夫)を中心として、「生きがい」と「家族」の問題が織り込まれている。父親(徹夫)は、二人の子(典子、智)に理解できない部分を感じながらも、父親として、監督として、人生が有意義であることを伝えたいと思っている。しかし、そのために何を語り、何を見せてやればいいのかかわからず思い悩んでいる。最後の場面は、この父親の心情の変化が描かれている。そこで『今なら、何かをあいつに話

③指導計画（全5時間）

時	主な学習活動	教師の指導・支援	評価とその方法
1	○文章を読み、「父から私への手紙」から分かる父の姿を読み取る。	○手紙の中と日常の父の様子の違いを読み取らせる。	○描写に表れる父の人物像を読み取ろうとしている。（発言・ノート）
2	○文章を読み、「末の妹が疎開したとき」から分かる父の姿を読み取る。	○疎開を決めたとき、末の妹が戻ってきた時の父の様子を読み取らせる。	○描写に表れる父の優しさに気づいている。（発言・ノート）
3	○筆者の文章を父親側の立場で書き換えて、父の心情を想像する。 【リライト1】→資料1 →資料2	○教師が作成した書き換えのモデル文を読ませ、筆者（娘）側から書かれた文章を父親の立場から書き換えるということを確認させる。	○立場を換えて書き、自分の言葉で父の気持ちを書き加えている。（ワークシート）
4	○末の娘を学童疎開へ出す場面を父の立場から書き換えて、父の心情に迫る。 【リライト2】→資料3	○書いていないことを想像して、生徒自身の言葉で書き加えてもよいことを伝える。	○自分の言葉を使って父の気持ちを書いている。（ワークシート）
5	○作品を通して筆者が伝えたかったことをまとめる。	○筆者の父に対する思いなどを想像して感想を書く。	○筆者のものの見方や考え方にふれ、自分の考えをまとめている。（ノート）

④第3時の学習

ア 目標

筆者の文章を父からの立場で書き換えて、父の心情を想像することができる。

イ 準備・資料

ワークシート，原文・教師作成の書き換えモデル文の拡大掲示物，ヒントカード

ウ 展開

主な学習活動	教師の支援
1 学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> 筆者（娘）の立場で書かれた文章を，父の心情を想像し，父の立場で書き換えよう。 </div>	
2 原文とモデル文を読み，立場を換えて書き換えるという課題について認識を深める。	○教師が作成した書き換えのモデル文を示す。（場面：「父から私への手紙」）

<p>3 原文とモデル文を比較検討し、立場を変えて書き換える方法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の置き換え→俺, 娘の邦子, 書いたなど ・父の心情→心配で心配で, 心を込めてなど <p>4 モデル文とは違う場面で、教師が作成した書き換えのモデル文の続きを完成させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 原文とモデル文を確認する。 (2) 原文の言葉を置き換える。 (3) 父の行動の描写に着目し、行動の理由を書き加える。 (4) 父の行動やその理由から、子供を思う父の気持ちを想像して書き加える。 (5) 完成した文章を近くの人と交換し合い、父の心情への理解をさらに深める。 <ul style="list-style-type: none"> ・うれしさだけではなくて、申し訳ないという気持ちもある。 ・「何も考えられない」「いてもたってもいられない」など表現の仕方はいろいろあるんだな。 <p>5 まとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>立場を換えて書くと、登場人物の心情をより深く想像することができる。</p> </div> <p>6 本時の学習を振り返り、次時は別の場面で書き換えをすることを確認する。</p>	<p>○グループで、言葉が置き換えられている箇所、父の心情が書き加えられている箇所を話し合えるよう助言する。</p> <p>→資料1</p> <p>○教師が作成した書き換え例文を示す。(場面:「妹が帰ってきた日」)</p> <p>→資料2</p> <p>○「なぜ、はだして表へ飛び出したのだろう。」「なぜ、声をあげて泣いたのだろう。」というヒントカードを示し、思考の手立てとする。</p> <p>○互いに読み合うことで、リライトの効果を実感できるよう支援する。</p> <p>観点①父親の心情が書き加えられているか。</p> <p>②自分の言葉で書いてあるか。</p>
--	--

⑤授業の実際

リライトの効果として、もとの文章を正確に読む力が付くこと、書き換える人物の心情に迫れることなどが考えられる。本単元では、筆者(娘)の立場から、父親の立場に文章を書き換えるにあたり、以下のように原文と書き換えのモデル文を提示した。

<原文>

死んだ父親は筆まめな人であった。

私が女学校一年で初めて親もとを離れたときも、三日にあげず手紙をよこした。当時保険会社の支店長をしていたが、一点一画もおろそかにしない大ぶりの筆で、

「向田邦子殿」

と書かれた表書きを初めて見たときは、ひどくびっくりした。

<書き換えモデル文>

俺は実は筆まめだ。

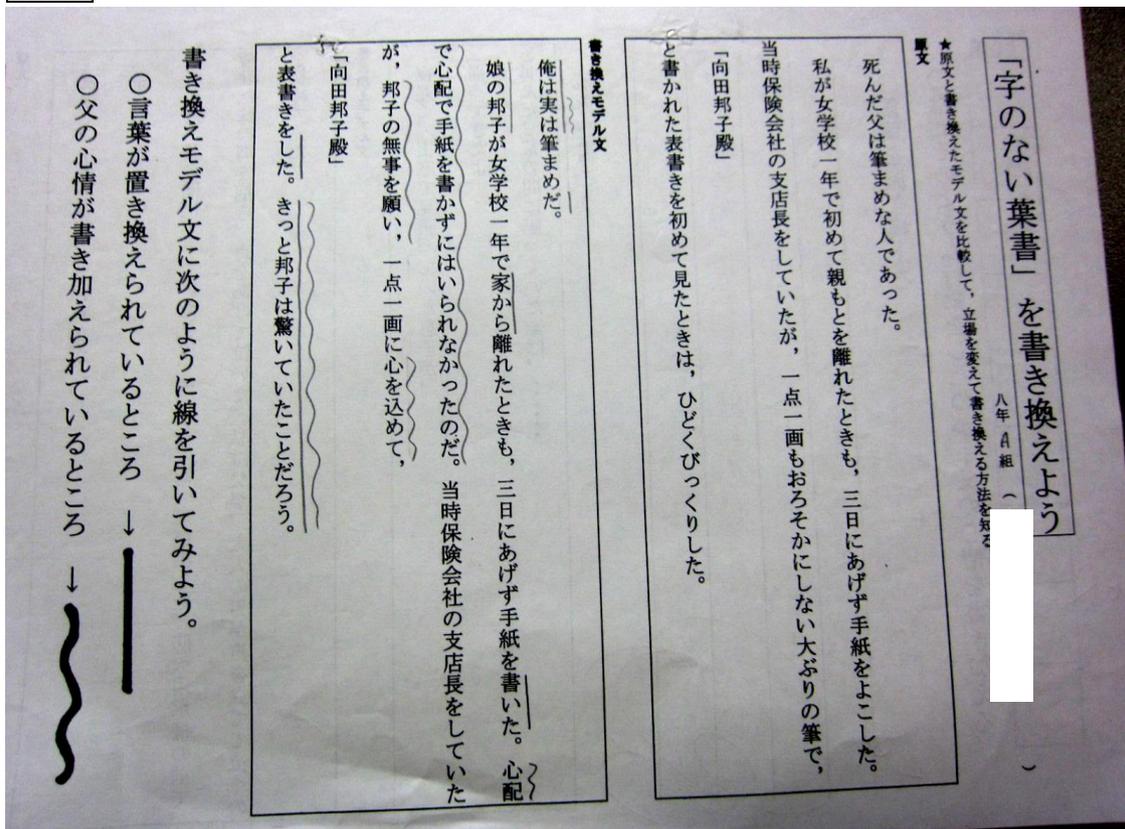
娘の邦子が女学校一年で家から離れたときも、三日にあげず手紙を書いた。心配で心配で手紙を書かずにはいられなかったのだ。当時保険会社の支店長をしていたが、邦子の無事を願い、一点一画に心を込めて、

「向田邦子殿」

と表書きをした。きっと邦子は驚いていたことだろう。

原文とモデル文を比較して、言葉が置き換えられているところには下線を引かせた。言葉が置き換えられているところを見つけるために、原文をしっかりと読み直していた。この学習過程は、正確に読む力が身に付くことになると考える。さらに、父親の心情が書き加えられているところに波線を引かせた。読み取ったことを生かし、父親の心情を書き加えることで、言動に表れる父親の心情について自分の言葉で表現することができた。

資料1



<生徒が線を引いた箇所>

- 言葉が置き換えられているところ

俺、娘の邦子、書いた、した、

- 父の心情が書き加えられているところ

実は、心配で心配で、無事を願い、心を込めて、きっと邦子は驚いていたことだろう

次に、別の場面の原文と書き換えのモデル文を提示し、その続きを生徒が考えた。

<原文>

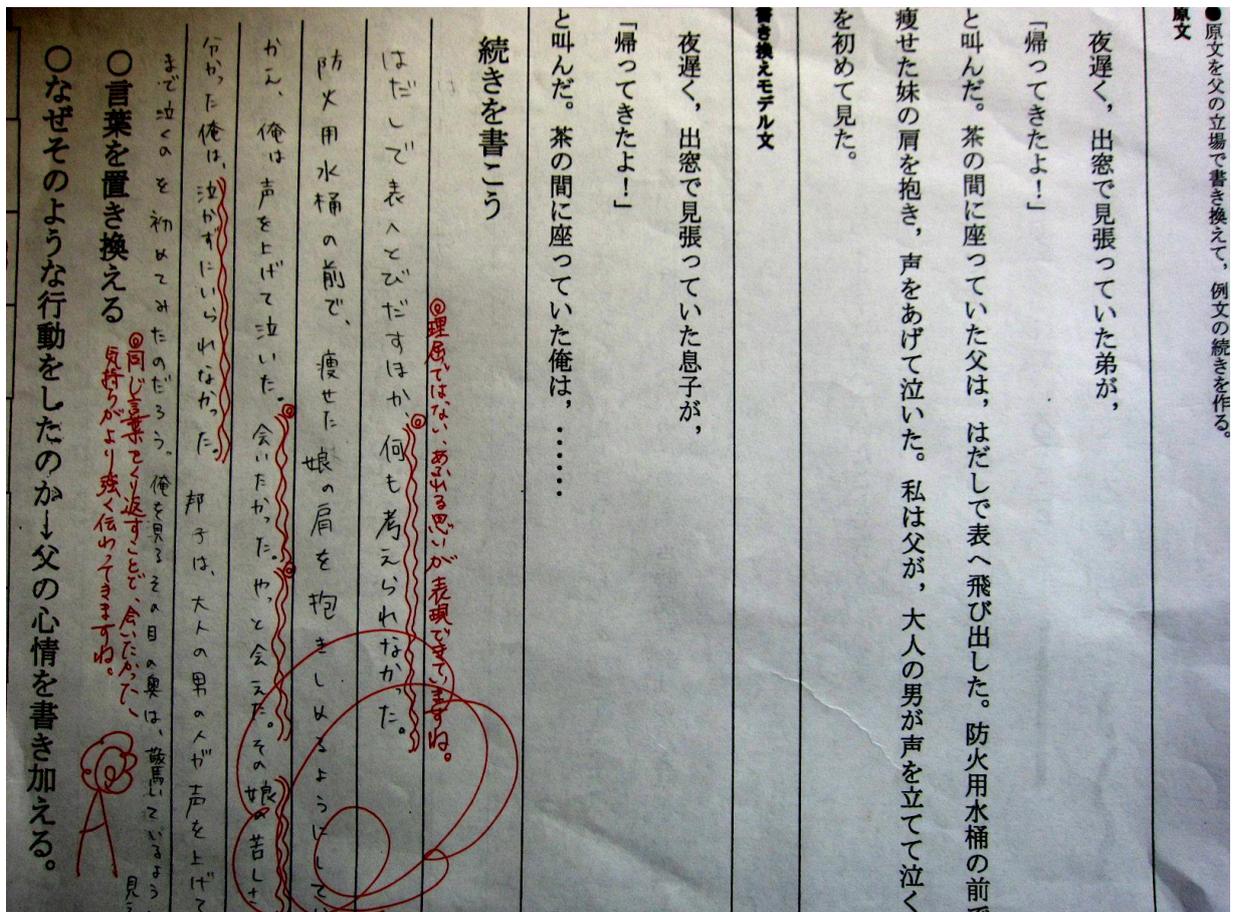
夜遅く、出窓で見張っていた弟が、
「帰ってきたよ！」
と叫んだ。茶の間に座っていた父は、はだしで表へ飛び出した。防火用水桶の前で、痩せた妹の肩を抱き、声をあげて泣いた。私は父が、大人の男が声を立てて泣くのを初めて見た。

<書き換えモデル文>

夜遅く、出窓で見張っていた息子が、
「帰ってきたよ！」
と叫んだ。茶の間に座っていた俺は、・・・(続きを書く)

ここでは、書き出しを提示することで、書くことへの抵抗を軽減することができた。また、「なぜ、はだしで表へ飛び出したのだろう。」「なぜ、声をあげて泣いたのだろう。」というヒントカードを示したことで、父親の心情を捉え、自分の言葉で書き加えることができた。その際には、前段階のモデル文を何度も見直し、参考にしている生徒が多かった。

資料2



<生徒のリライト作品>

○末の妹の出発が決まると、暗幕を垂らした電灯の下で、妻は当時貴重品になっていたキャラコで肌着を縫って名札を付けた。俺は末の娘が学童疎開をしてしまうと、きっと心配で心配で安心していることができなくなると思った。俺はいっぱい葉書に几帳面な筆で俺宛の宛名を書いた。そして末の娘に俺は言った。

「元気な日はマルを書いて、毎日ポストに入れなさい。」

まだ字が書けない末の娘。俺は、娘が元気に過ごせるのかと不安だったので、○や×を見るだけでも、少しは安心できるだろうと思ったのだ。

書き換えた作品は、生徒同士で読み合うことができたが、読み合っただけで気づいたことを、次へ生かすことができなかつた。相互評価を通して学んだことを生かすための手立てが必要であると考える。

II ①単元名

「卒業ホームラン」 (東京書籍 第2学年)

②単元の目標

登場人物の言葉や行動がどんな意味を持っているかに注意して、作品を読み味わうことができる。

③指導計画 (全6時間)

時	主な学習活動	教師の指導・支援	評価とその方法
1	○文章を読み、登場人物やあらすじを確認する。	○場面ごとにあらすじを確認し、登場人物とそれぞれの状況をまとめさせる。	○読解に興味をもち、作品を読んであらすじや登場人物について把握しようとしている(発言・ノート)
2	○人物描写カードを分類することにより、「頑張る」「いいこと」「努力」「結果」についての徹夫・典子・智の考え方を捉える。→資料4	○人物描写カードを、それぞれ徹夫・典子・智の誰に関するものかを確認して分類し、注目する文章を意識できるようにする。	○人物描写カードに書かれた文章に注目し、関連する登場人物を見分けることができる。(ワークシート)
3	○グループで話し合い、「頑張る」「いいこと」「努力」「結果」という言葉についての徹夫・典子・智の考え方をまとめ、発表する。→資料5	○前時の学習を生かし、話し合っただけで登場人物の考え方についてまとめることができるようにする。	○登場人物の考え方についてまとめることができる。(発言・掲示物)
4	○登場人物の描写をもと	○前時の学習を生かし、	○登場人物の描写をもと

	に相関関係を捉え、ベン図を書く。 →資料6	「頑張る」「いいこと」「努力」「結果」など言葉に着目して考えるように助言する。	に相関関係を捉え、それぞれ人物像や筆者の人物設定の意図を考えることができる。(ワークシート)
5	○徹夫の考え方の変化を図にし、それを基に一文でまとめる。 →資料7	○一文でまとめるのが難しい場合には、空欄を取り入れた文を提示する。	○徹夫の考え方の変化を捉えることができる。(ノート)
6	○読み取ったことを生かして、物語の続きを書く。 →資料8	○「家に帰った後、徹夫は典子に何を話すだろう。」という問いに答えるという形で、物語の続きを書くようにする。	○父親の心情が変化しきっかけとなる描写を根拠として自分の考えをもち、物語の続きとして表現することができる。(ワークシート)

④第4時の学習→資料6

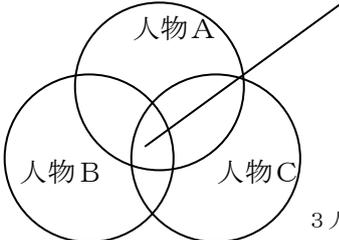
ア 目標

共通点や相違点に着目し、人物の相関関係や筆者の人物設定の意図を捉える。

イ 準備・資料

ベン図ワークシート、センテンスカード(本文より2カ所)、キーワードカード

ウ 展開

主な学習活動	教師の支援
<p>1 学習課題を把握する。</p> <p>共通点や相違点に着目して、人物の相関関係を捉えよう。</p> <p>・前時の学習を振り返り、4人の登場人物の名前や続柄、状況、様子、考え方等を簡単に確認する。</p> <p>2 ベン図について知り、登場人物の相関関係を捉える際、本文の描写を基に共通点・相違点を検討する方法となることを認識する。</p> <p>3人の考えの共通点を書く</p>  <p>3人との考えの相違点を書く</p> 	<p>○前時のワークシートや掲示物を見直して、確認できるようにする。</p> <p>○ベン図モデルを拡大して提示する。</p> <p>○時間があれば、3人の考えの共通点、3人との考えの相違点の部分以外のところも考えて記入するよう助言する。</p>

<p>3 センテンスカード（本文より2カ所）、及びキーワードカードをもとに、ベン図を完成させる。</p> <p>(1) センテンスカードの描写から登場人物の考えとして何度も出てくる言葉を確認する。 （キーワードカード「頑張る」「いいこと」「努力」「結果」など）</p> <p>(2) 登場人物の考え方について、キーワードを基にまとめる。</p> <p>(3) 人物A, B, C, Dを設定する。</p> <p>(4) 共通点, 相違点などをベン図に書き込む。</p> <p>4 完成したベン図をグループで検討し合い、筆者の人物設定の意図について考える。</p> <p>(1) 自分のベン図を見せながら、人物A, B, C, Dの設定の理由を説明する。</p> <p>(2) 特に人物Dについては、物語展開においてどんな役割を果たしているのか、検討し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・智は、好きだから頑張るということを、徹夫に気づかせる。 ・智は、徹夫（父）を悩みから救う存在。 <p>(3) 友だちの意見を取り入れて、必要があればベン図を直す。</p> <p>5 グループで検討したことをふまえて、代表者がベン図について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物Dの設定が、物語展開上どんな役割を果たしているか。 <p>6 本時の学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>登場人物の考えを比べると、人物像や筆者の人物設定の意図などが分かる。</p> </div>	<p>○センテンスカードを提示することで、着目する言葉を全員で確認できるようにする。</p> <p>○キーワードカードを提示することで、着目する言葉を全員で確認できるようにする。</p> <p>○一人一人の考えをグループ内で共有できるよう支援する。</p> <p>○発表に向けて、考えをまとめる際には「発表の仕方」の手引きを利用するよう助言する。</p> <p>—発表の仕方— 私たちは、人物Aは（ ）人物Bは（ ）人物Cは（ ）にしました。3人の考えの共通点は～。理由は～。人物Dは（ ）にしました。3人の考えとの相違点は～。理由は～。人物D（ ）はこの物語で～。</p> <p>○特に、自分たちとは違う考えや、人物設定が同じでもその理由が違う部分などに注目させたい。</p>
---	---

⑤第6時の学習→資料8

ア 目標

読み取ったことを生かして、物語の続きを書く。

イ 準備・資料

ワークシート

ウ 展開

主な学習活動	教師の支援
1 学習課題を把握する。 家に帰った後、徹夫が典子に何を話すか考えて、物語の続きを書こう。	○続きの出だし部分については、教師が作成し、それに続く形で書くよう指示する。
2 『今なら、何かをあいつに話してやれるかもしれない。納得はしないだろうが、伝えることはできるだろう。』の描写に着目して、物語の続きを考える。	○特に徹夫の心情の変化やそのきっかけとなる描写について、前時までの学習を振り返るよう助言する。
3 登場人物の考え方を振り返ったり、心情の変化を想像したりして、それが伝わるような会話や行動を文章にしていく。	○言葉や行動にその人の心情が表れていることを認識させる。
4 完成した文章を近くの人と交換し合い、登場人物への理解をさらに深める。	○思考の幅が広がるよう、できるだけ多くの人と交換し合うことができるよう助言する。
5 まとめをする。 物語の続きを考えることで、登場人物の心情をより深く想像することができる。	○徹夫の心情の変化により、典子に伝えたいことがどのように変わったかについて話し合うよう助言する。
6 本時の学習を振り返る。	

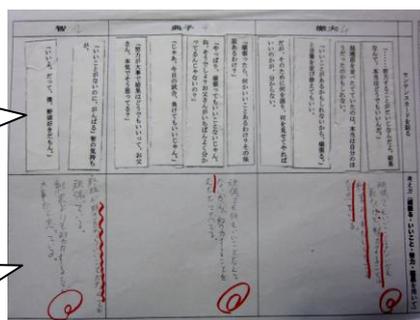
⑥授業の実際

第2・3時では、登場人物の言葉や行動に着目し、それぞれの考え方を把握するための学習を行った。本文は文章量が非常に多いため、あらかじめ注目したい描写を人物描写カードとして提示し、それらを登場人物ごとに分類していった。さらに、本文において繰り返し出てくる言葉は何かを考え、人物像を考える際のキーワードとした。描写部分とキーワードを設定したことが考える際の切り口となり、本文を繰り返し丁寧に読み直す姿が多く見られた。

資料4

登場人物ごとに人物描写カードを分類して貼る。

登場人物ごとに「頑張る」「いいこと」「努力」「結果」というキーワードを用いて人物像をまとめる。



人物像を考える際には、個人の考えをもとに、グループで人物像をまとめ、全体に向けて発表する場を設け、人物像の捉え方に広がりを持たせる工夫をした。

資料5



第4時では、登場人物の描写をもとに相関関係を捉えるために、ベン図を活用した。ベン図は重なった3つの円（登場人物A, B, C）と、それらから離れた1つの円（登場人物D）をあらかじめ設定した。「智」が他の3人の登場人物とは異なる考え方、感覚を持っていることに気づかせたかったためである。さらに、この「智」の考え方・感覚が、父親の「徹夫」の心情に変化をもたらしているのだということに気づかせたかったためでもある。

生徒たちの中には、登場人物Dは「智」であるとすぐに気づいた生徒もいたが、初めのうち多くの生徒は娘の「典子」であるとしていた。しかし、センテンスカードで提示された本文の描写を繰り返し見直すことで、「智」ではないかと気づくことができていた。

以下に、授業での生徒の思考の変化をまとめる。

<生徒の思考の変化>

- ・ 徹夫（父）、佳枝（母）、智（息子）＝「結果より努力が大事。いいことがあるかもしれないから、がんばる。」→人物A, B, C
- ・ 典子（娘）＝「がんばってもいいことはない。」→人物D

↓

センテンスカード（本文の描写）

『だからこそ、本音を言えば、徹夫にはよく分からないのだ。「いいことがないのに、頑張る」智の気持ちだ。』

『佳枝が、「今度は別のスポーツにしたら？」と言った。「ほら、サッカーとかテニスとか。だが、智は迷うそぶりもなかった。「野球部にする。』』

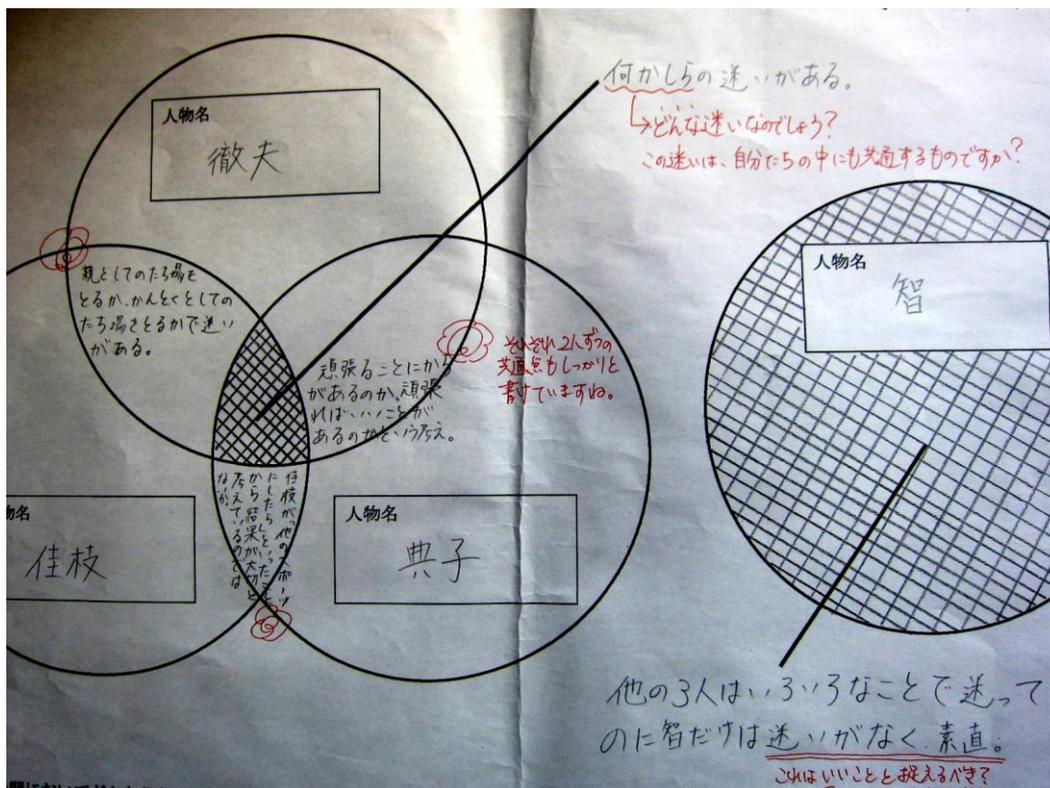
『いいよ。だって、僕、野球好きだもん。』

↓

- ・徹夫（父），佳枝（母），典子（娘）＝「いいことがないのに頑張る智の気持ちがわからない。」→人物A，B，C
- ・智（息子）＝「好きだから頑張る。」→人物D

また，人物ABCの共通点，人物Dの相違点を中心に考える学習展開のなかで，人物ABの共通点，人物BCの共通点，人物CAの共通点についても自主的に考えることができた生徒もいた。

資料6



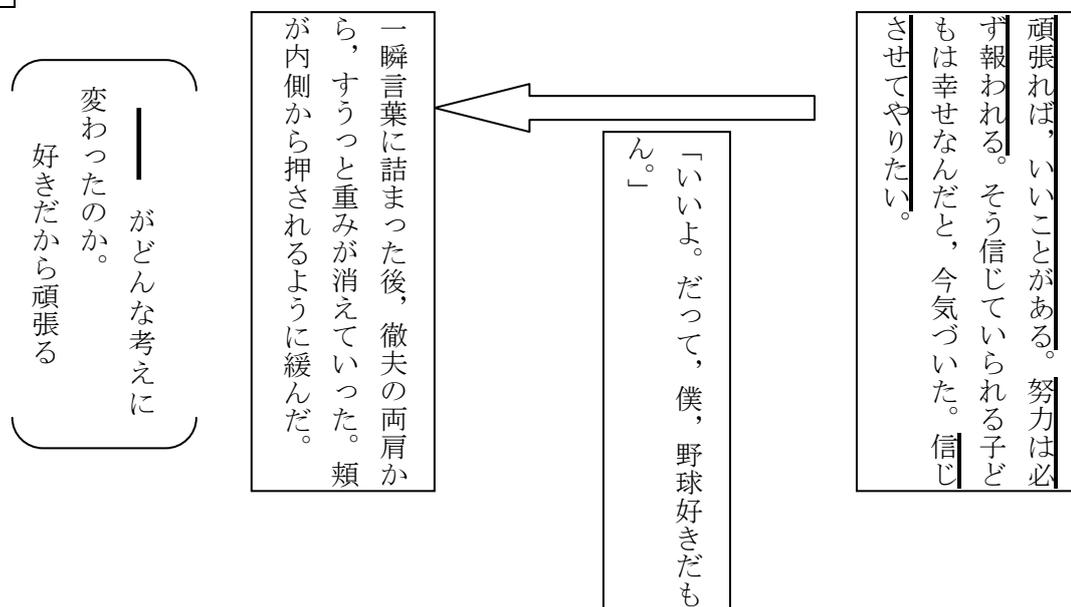
<ベン図における生徒の記述例>

設定：人物A（徹夫），人物B（佳枝），人物C（典子），人物D（智）

- 徹夫，佳枝，典子の共通点→何かしらの迷いがある
- 徹夫，佳枝の共通点→親としての立場をとるか監督としての立場をとるかで迷いがある。
- 佳枝，典子の共通点→佳枝が「他のスポーツにしたら？」と言っているから，結果が大切と考えている。
- 徹夫，典子の共通点→頑張ることに価値があるのか？頑張ればいいことがあるのか？
- 智の相違点→他の3人はいろいろなことで迷っているが，智だけは迷いがなく素直。好きだから頑張る。
- 智は物語展開においてどんな役割を果たしているか→他の3人に純粋な気持ちや素直な心の大切さを気づかせる存在。

第5時では、徹夫の考え方の変化を中心にあらすじを図解化して一文にまとめた。これは、次の第6時で物語の続きを書く際、徹夫が典子に何を語るかを考えさせる手立てとなった。

資料7



・徹夫は、(頑張ればいいことがある、努力は報われると信じさせてやりたい) と思っていたが、智の(「いいよ。だって、僕、野球好きだもん。」)によって、(好きなものなら頑張れる)という考えに変わった。

第6時では、物語の続きを書くという活動にした。「物語の続きを自由に書く」としてしまおうと、これまでの人物像を捉える学習や相関関係を考える学習が生かされず、本来の目的である「読むこと」の力の向上にならないのではないかと考え、二つの条件を付けることとした。一つ目は、「息子の智の言葉をきっかけに心情の変化した父の徹夫が、家に帰った後、娘の典子に何を語るのかを考える」という条件である。何も決められていない状態から物語の続きを考えると、何を書けばよいのか分からなくなると思われる。そこで、本文の『今なら、何かをあいつに話してやれるかもしれない。納得はしないだろうが、伝えることはできるだろう。』の描写に着目した条件設定を設けた。二つ目は、書き出しをあらかじめ設定し、その書き出しに続く形にするという条件である。これは、書き出しでつまずきやすいのではないかと考え、書き出しの例を示して書かせることにした。

<物語の終わり (本文) >

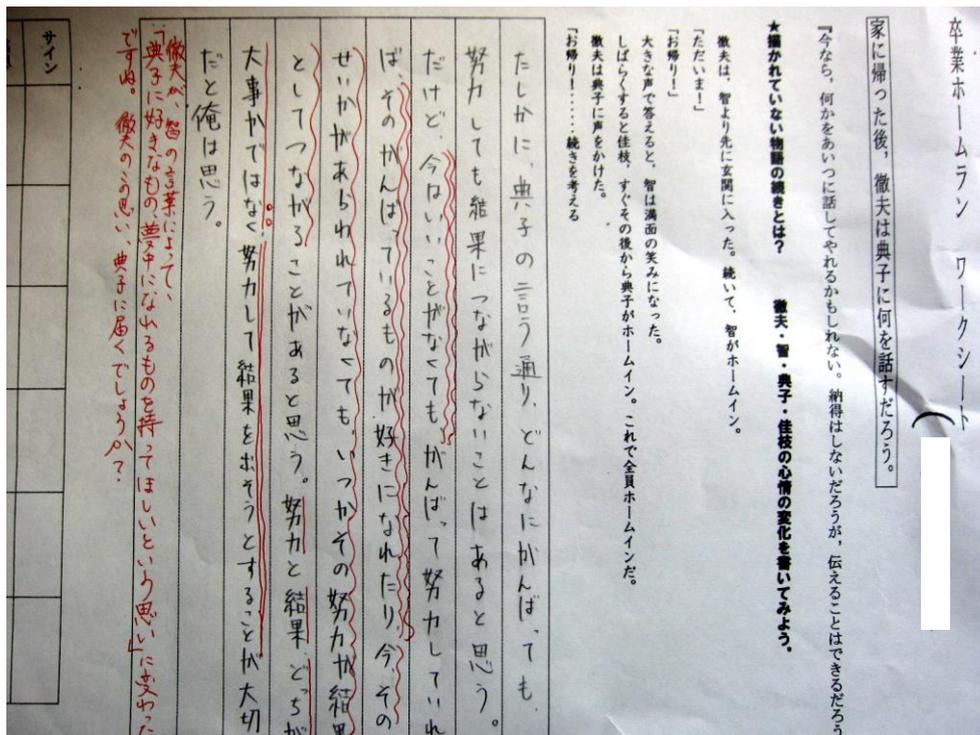
今なら、何かをあいつに話してやれるかもしれない。納得はしないだろうが、伝えることはできるだろう。
だが、それは全て家に帰ってからのことだ。
四人で帰ろう。
先制点なのか、追加点になるのか、劣勢に立たされての四点かは分からないけれど。
家族みんなでホームインしよう。

<物語の続き 書き出し>

徹夫は、智より先に玄関に入った。続いて智がホームイン。
 「ただいま！」
 「お帰り！」
 大きな声で答えると、智は満面の笑みになった。
 しばらくすると佳枝、すぐその後から典子がホームイン。これで全員ホームインだ。
 徹夫は典子に声をかけた。
 「お帰り！・・・(続きを考える)

ほとんどの生徒が、人物像や相関関係を理解し、父親の心情が変化したきっかけとなる描写を根拠として自分の考えをもったり、筆者の人物設定や物語展開の意図を捉えたりしながら、スムーズに書き出すことができていた。しかし、数名は授業時間内に書き始められなかったため、本時までの学習活動において、ワークシートや個別の声かけ等の再検討は必要である。

資料7



<生徒の作品>

○やっぱり見に来てくれたんだ。今日の試合の智を見て俺分かったんだ。たしかにおまえのいうとおり努力したって、いくら頑張ったって、救われないこともあると思う。今日の試合に出れなかった智のようにな。でもそういう「結果」だけじゃなくて、今までの努力とか、好きなことを一生懸命やることにも意味があると思う。だから、おまえにも自分の好きなことを見つけて「努力する」ってことの楽しさを知ってもらいたい。おまえなら分かってくれと信じてるからな。

5 研究のまとめ

本研究で実践した3つ言語活動について、「読解リテラシー」の3つの到達度、

- i テキストを書かれていることを捉えて理解する【情報へのアクセス・取り出し】
- ii テキストの内容や筆者の意図などを解釈する【統合・解釈】
- iii テキストの内容や表現などを吟味・検討したり、自分の考えをまとめたりするような読み【熟考・評価】

に関連させてまとめたい。

- ア 主人公の体験した出来事を整理し、他の登場人物の視点から書き換える。—「字のない葉書」—
リライトは、「読解リテラシー」におけるiii テキストの内容や表現などを吟味・検討したり、自分の考えをまとめたりするような読み【熟考・評価】を目指した言語活動であった。

文章を読み、父の様子を読み取ることは、i テキストを書かれていることを捉えて理解する【情報へのアクセス・取り出し】の段階にあたるが、ほとんどの生徒が正確に読み取ることができていた。しかし、その後、リライトの活動に入ると、言葉を置き換えることはできても、父親の心情を捉えたり、自分の言葉で表現したりすることがなかなかできない生徒もいた。これは、ii テキストの内容や筆者の意図などを解釈する【統合・解釈】の段階が学習過程の中にしっかりと組み込まれていなかったためと考えられる。「なぜ、はだして表へ飛び出したのだろう。」「なぜ、声をあげて泣いたのだろう。」といった、登場人物の言動をしっかりと解釈していく学習の工夫が必要であると言える。これは、iii テキストの内容や表現などを吟味・検討したり、自分の考えをまとめたりするような読み【熟考・評価】の到達度を深めるための課題でもある。また、リライトした文章を互いに読み合っただけで気づいたこと等が活かされていなかったことも課題である。

そこで、次単元「卒業ホームラン」では、ii テキストの内容や筆者の意図などを解釈する【統合・解釈】の段階を学習過程の中にしっかりと組み込んでいくこととした。

- イ 登場人物の描写をもとに相関関係を捉え、ベン図を書く。—「卒業ホームラン」—

前単元「字のない葉書」での課題を受けてii テキストの内容や筆者の意図などを解釈する【統合・解釈】の段階として、登場人物の描写をもとに相関関係を捉え、ベン図を書く活動を取り入れた。

図式化することで、登場人物の描写をもとに相関関係を捉え、それぞれの人物像や筆者の人物設定の意図に気づくことができた生徒が多かった。ベン図では、登場人物Dは一人だけ異質な考え方をしていることになる。はじめは、登場人物Dを「典子」だと思っていた生徒も、本文の描写を繰り返し見直すことで、「智」であることに気づくことができた点は、ii テキストの内容や筆者の意図などを解釈する【統合・解釈】の段階として効果があったと言える。また、登場人物Dがだれかを巡って、グループでの議論に集中する様子も見られた。また、登場人物D「智」が物語展開上、どんな役割を果たしているのかについても、ベン図と本文描写をもとに考えることができた。

ウ 読み取ったことを生かして、物語の続きを書く。―「卒業ホームラン」―

物語の続きを書くことは、リライトと同様に、「読解リテラシー」においてiii テキストの内容や表現などを吟味・検討したり、自分の考えをまとめたりするような読み【熟考・評価】の段階にあたる。ii テキストの内容や筆者の意図などを解釈する【統合・解釈】の段階として、ベン図を用いて登場人物の描写をもとに相関関係を捉えたり、それぞれの人物像や筆者の人物設定の意図を考えたりしたことで、物語の内容とかかわりながら、物語の続きを書くことができた。また、物語の続きを書くという目的に向かって、本文から読み取ったことを振り返り、生かすことができている生徒が多かった。

以上のことから、「読解リテラシー」の【情報へのアクセス・取り出し】【統合・解釈】【熟考・評価】の段階を指導過程に位置づけ、「読むこと」と「書くこと」を関連させた言語活動を工夫したことで、書くために何度もテキストを読むなど、主体的な読みにつながったと言える。また、書き換え（リライト）、登場人物の相関関係の図式化（ベン図）、続き創作などの「書く」活動は、読み取った内容をおさえつつ、自分の考えを表現することができる言語活動であり、「読解リテラシー」の育成には有効な指導法であると言える。

6 今後の課題

- (1) 読みの学習をさらに深めるために、表現を根拠に自分の考えを形成するだけでなく、自分の知識や体験と関連付けて考えを述べさせていく必要がある。
- (2) 筆者の表現の工夫を捉え、その効果に気づかせたり、自分の表現に取り入れたりさせていく必要がある。
- (3) 自分が表現したものを相互評価したり自己評価したりすることで、自分の考えを広げることができるよう、交流の場の工夫を行う必要がある。
- (4) 「読解リテラシー」の育成は、教育活動全体で行うべきものであるため、各教科で行うべき言語活動を考える必要がある。国語科においても、どのような言語活動が有効であるかを、さらに検証する必要がある。

7 参考文献

- 日本国語教育学会 (2010) 『国語科単元学習の創造 IV 中学校編』 東洋館出版社
大村はま (1982) 『大村はま国語教室 第1巻 国語単元学習の生成と深化』 筑摩書房
大村はま (1983) 『大村はま国語教室 第4巻 読むことの指導と提案』 筑摩書房
金子守 (2013) 「身のまわりの「非連続型テキスト」を活用する」『月刊国語研究』 日本国語教育学会
五十井美知子 (2014) 「文学教材を立体的に読む」『月刊国語研究』 日本国語教育学会
三浦登志一 (2015) 「創作活動の可能性と課題」『月刊国語研究』 日本国語教育学会
文部科学省 (2008) 『中学校学習指導要領解説 国語編』 東洋館出版社
文部科学省 (2012) 『言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】』 教育出版